

土間でつながる、和の家



水戸工業高校 建築科3年 鈴木碧空

目的

本発表では、近年減少している和風建築に着目し、その特徴や魅力を整理することで、日本の伝統的な建築様式の価値について理解を深めることを目的としています。

そこで、自分は、和風建築の要素の1つである土間に注目し、現代の住宅において新しい選択肢になるよう考えました。

動機

近年、住宅は、洋風のデザインが主流となり、和風の家は、年々少なくなっていると感じました。その結果、日本の伝統的な和風建築のよさや価値、日本らしさが失われそれらが、十分に継承されていない現状があると考えたためです。



仮説

和風建築に見られる土間は、内と外を緩やかにつなぐ空間であり、現代住宅に取り入れることで生活の柔軟性や家族との交流を促し、和風建築の価値を再評価するてがかりになるのではないかと。

画像生成ソフトで生成したイメージ



道路側

- ①土間を南面に配置し、リビングに広々とした。
- ②リビングの床を畳にし日本らしさを
- ③家の中心に収納、東西南北に出入口を配置

平面図

nanobananaを利用して生成した画像





生成する前の模型写真
これをnanobananaにて生成
する。
今後AIはこのような使い方
で、よりリアルなプレゼンテ
ーションが可能となる。



まとめ

近年減少している和風建築を今後増やしていくためには、昔の形をそのまま再現するのではなく、土間や縁側などの要素を現代の生活にあった形に変えることが重要だと考えました。